



# 生成AIハンドブック

## 《社外公開版》

株式会社エーピーコミュニケーションズ  
情報システム部・品質保証部

バージョン：3.3  
最終更新：2026/04/13

# 生成AIハンドブック 目次

## **i** 目次

- ✓ 序文「生成AI活用ポリシー：創造性を解き放ち、AIと未来を共創する」
- ✓ 本ハンドブックの役割・前提知識
- ✓ 全社員がいつでも業務利用できるAIサービス
- ✓ 利用者が申請すれば業務利用できるAIサービス
- ✓ 部署内利用しているAIサービスの取り扱い
- ✓ 許可済みのAIサービスならどんなことでも入力してよいのか？
- ✓ AIが出力した情報の取り扱い
- ✓ 本資料における商標の取り扱い

## **i** Appendix（社外秘）

- ✓ 業務利用可否の早見表
- ✓ 取引先企業からの通達事例
- ✓ 業務利用（部署内利用）までの流れ
- ✓ AIサービスの業務利用に関する問い合わせ先

# 序文「生成AI活用ポリシー：創造性を解き放ち、AIと未来を共創する」

株式会社エーピーコミュニケーションズ（APC）は、生成AIを単なる効率化のツールではなく、「私たちの創造性を拡張し、企業活動、ひいては社会全体をより良くするための強力なパートナー」であると定義します。

現在、私たちは技術史に残る大きな転換点にいます。生成AIの普及は、市場を劇的に拡大させる最大のチャンスです。この機を逃さず、新たな価値を創造していくために、以下のポリシーを掲げます。

## 1. 「敵」ではなく「パートナー」として：人間主体の創造性

生成AIは私たちの仕事を奪う敵ではなく、人間にしかできない高度な意思決定や創造的な活動に集中させてくれるパートナーと定義します。私たちはAIを使いこなし、これまでにないスピードと品質で社会に貢献します。ただし、AIは重要なパートナーではありますが、最終的な判断と責任は常に人間にあります。出力されるアウトプットを高付加価値な状況に制御することこそが、APCのプロフェッショナルとしての矜持です。

## 2. 「カスタマーゼロ」の精神：挑戦と継続的な学習

私たちは、お客様に価値ある提案を行うために、まず自分たちが誰よりも積極的にAIを使い倒す「カスタマーゼロ」を実践します。市場を切り拓くのは、現場での膨大な事例づくりです。新しいことにチャレンジする人の意欲を邪魔しないよう、会社は最大限障壁を取り払います。また、進化の激しいこの分野において、常に学び続ける姿勢を重んじ、全社員がAIと共に進化し続ける集団を目指します。

## 3. 「信頼」という名のガードレール：安全と倫理の両立

自由な挑戦と社会への責任を両立させるため、本ハンドブックを「お客様と社員を守るための最低限のガードレール」として定めます。情報漏洩の防止や権利の保護はもちろん、AIの利用に伴う倫理的な配慮（偏見や差別の排除など）についても内閣府の「[人間中心のAI社会原則](#)」をもとに高い意識を持ちます。ルールを明確にすることで、迷いなくフルアクセルで挑戦できる、健全かつ安全な活用環境を維持します。

株式会社エーピーコミュニケーションズ  
取締役 CSO | 上林 太洋

# 本ハンドブックの役割・前提知識

## ① 本ハンドブックの役割



本ハンドブックは、当社従業員が生成AIサービスを業務利用する上で知っておくべきこと・守るべきことを整理したものです。

## ② 上位の遵守事項



当社従業員がAIサービスを利用するにあたり、以下の遵守事項があること、その内容を理解していることを前提とします。いずれの遵守事項もAIサービスの利用に限らず適用されます。

[ISMSマニュアル\(ISO/IEC 27001:2022\)](#)

[ISMS詳細管理策対応手順書\(ISO27001:2022\)](#)

[AIサービスガイドライン](#)

[2026年度 全社品質・セキュリティ目標・ルール](#)

## ③ マネジメントシステムの適用範囲



当社では社内の組織ごとにISMS（ISO/IEC 27001:2022）の認証を取得しています。

<https://www.ap-com.co.jp/company/outline/>

情報システム部・品質保証部が中央管理するITサービスに限らず、業務利用するITサービスの全てについて、利用組織ごとに管理体制・手法を確立している必要があります。

# 全社員がいつでも業務利用できるAIサービス

当社のGoogleアカウント・Slackアカウントから、以下のサービスを業務利用できます。

本項に掲載されているサービスは、全てデータ/プライバシー保護の対象となり、入力データはAIモデルの学習/改善に利用されません。

サービス名称	URL
Gemini Pro	<a href="https://gemini.google.com/app">https://gemini.google.com/app</a>
Google Workspace with Gemini	<a href="https://support.google.com/a/answer/13623623">https://support.google.com/a/answer/13623623</a>
Google Workspace Studio	<a href="https://studio.workspace.google.com/">https://studio.workspace.google.com/</a>
NotebookLM Pro	<a href="https://notebooklm.google.com/">https://notebooklm.google.com/</a>
Slack AI	<a href="https://slack.com/intl/ja-jp/features/ai">https://slack.com/intl/ja-jp/features/ai</a>

## Appendix

- [Google Workspace の生成 AI に関するプライバシー ハブ](#)
- [NotebookLM でデータを保護する仕組み](#)
- [よくある質問 - NotebookLM ヘルプ](#)
- [How We Built Slack AI To Be Secure and Private](#)

# 利用者が申請すれば業務利用できるAIサービス

申請した場合に限り、当社のGoogleアカウントから、以下のサービスを業務利用できます。

本項に掲載されているサービスは、情報システム部から払い出した環境であれば、データ/プライバシー保護の対象になり、入力データはAIモデルの学習/改善に利用されません。

※本ハンドブックに未掲載の方法でアクセスした場合、多くの場合はデータ/プライバシー保護の対象外となるため、一切の業務利用を禁止します。

サービス名称	URL
Google AI Studio	<a href="https://aistudio.google.com/">https://aistudio.google.com/</a>
Google Antigravity	<a href="https://antigravity.google/">https://antigravity.google/</a>
適宜追加	-

【申請方法】 Slack [#help-itg](#) のヘッダーにあるワークフローから申請してください。

## Appendix

- [Google Workspace の生成 AI に関するプライバシー ハブ](#)
- [NotebookLM でデータを保護する仕組み](#)
- [よくある質問 - NotebookLM ヘルプ](#)
- [How We Built Slack AI To Be Secure and Private](#)

# 部署内利用しているAIサービスの取り扱い

## 1. 基本方針

- 先述の全社共通AIサービス以外にも、事業部主導によりスピード感を損なうことなくトライアルを行うことができます。
- 後述の承認プロセスを経ることで、「部署内利用」として各事業部の責任において導入・運用が可能です。

## 2. 利用を可能とする「3つの遵守事項」

- ISMS・Pマーク準拠
  - 事業部ごとの認証範囲に基づき、セキュリティレベルが維持されていること。
- データの取り扱い
  - 入力データがAIモデルの学習に再利用されない設定（オプトアウト）が可能であること。
- お客様との守秘義務（NDA）の遵守
  - 特定案件で利用する場合、契約上の禁止事項に抵触しないことを事業部で確認すること。

## 3. 運用の必須要件

- 事業部内にて管理責任者および管理手法を明確に定めていること。
- 事前の承認プロセスで許可された内容どおりに費用精算すること。

### **i** Appendix

- [部署内利用とは](#)
- [#help-aiサービス利用相談での問い合わせ履歴](#)
- [ISMSマニュアル\(ISO/IEC 27001:2022\)](#)
- [ISMS詳細管理策対応手順書\(ISO27001:2022\)](#)
- [AIサービスガイドライン](#)
- [2026年度 全社品質・セキュリティ目標・ルール](#)

### **i** 部署内利用中の例

- Google以外の対話型AIツール
- Google以外の音声テキスト化ツール
- Google以外のコーディング支援ツール
- AI搭載型エディタ
- AI戦略支援サービス

許可済みのAIサービスならどんなことでも入力してよいのか？

## 《区別なく情報を入力してはいけません》



前項の通り、当社での業務利用の許可をしているAIサービスはデータ/プライバシー保護の対象です。しかし、**最も優先されるのは企業間の基本契約をはじめ、案件ごとの機密保持や著作権（契約や指針）**です。これらの遵守徹底をお願い致します。

これは生成AIサービスに限らず、ブログやオンラインストレージといったオンラインサービスを利用する際の注意点と同じです。

**元来、持ち出しや再利用することが禁止されているデータは、AIモデルの学習/改善に利用されない場合であっても入力してはいけません。**

## AIが出力した情報の取り扱い



AIサービスは私たちの重要なパートナーではありますが、提示された情報の真偽、そしてその**利用結果の責任は、全て私たち自身にあります**。受け取った情報から物事を判断し、**意思決定を行うのは私たち人間です**。

また、AIサービスに限ったことではありませんが、業務利用する際にはプライベート利用とは全てを区別し、当社や関係各所の情報資産や知的財産といった守るべきものがあることを常に意識しましょう。

AIの特性を理解した上で効果的に利用しましょう。

### **i** 再掲

- [ISMSマニュアル\(ISO/IEC 27001:2022\)](#)
- [ISMS詳細管理策対応手順書\(ISO27001:2022\)](#)
- [AIサービスガイドライン](#)
- [2026年度 全社品質・セキュリティ目標・ルール](#)

## 本資料における商標の取り扱い

- Gemini、Google Workspace、Google AI Studio、NotebookLM は、Google LLC の商標または登録商標です。
- Slack は、Slack Technologies, Inc. の登録商標です。
- その他、本資料に記載されている会社名、製品名、サービス名は、一般に各社の商標または登録商標である場合があります。
- 本資料では、説明の便宜上、「™」や「®」などの権利表示記号を省略して記載している場合があります。

### 免責事項：

本資料における他社商標の言及は、情報の提供を目的としたものであり、各権利者による本資料の内容の推奨や、当社（株式会社エーピーコミュニケーションズ）との特定の提携関係を必ずしも意味するものではありません。

# Appendix

ここから先は《社外秘情報》のため、公開版には含めていません

